

仙台イメージマップの分析

2006.11.15

今日は、前回描いてもらった仙台イメージマップを分析していきます。

まず、配布した14枚の地図を見比べてみてください。どんな部分に表現の差異のパターンが見られるでしょうか。注目すべきポイントをメモしておきましょう。(15分)

e.g 川の線形、道路名称、立体的かどうか、地下鉄の線路を描くかどうか,等々

分析のための道具立てとして、ケヴィン・リンチがアメリカの都市のイメージを分析して抽出した五つの概念を利用しましょう。(別紙参照)

パス path

エッジ edge

ディストリクト district

ノード node

ランドマーク landmark

ついで、地図をスクリーンに映しながら、皆で詳しく分析しましょう。

対象とする地図を皆で三つ選びましょう。挙手による投票で。

ひとつずつプロジェクタでスクリーンに映しながらブレインストーミング。一枚につき10分程度ずつ。

* 特徴的だと思う部分や自分はこうは描かなかったと思う部分について、自由に指摘しましょう。

* 最初にメモした注目すべきポイントを利用しましょう。

* 地図が実際の都市に比して正確であるかどうかは問題ではありません。描き手のイメージマップがどのように形成され表現されているかにフォーカスしてください。

* メモは書記がとるので、各自はメモをとる必要はありません。地図を見ることに集中しましょう。

この地図は、どんな順序で描かれていったのでしょうか。描いた人に発表してもらいましょう。

リンチの観察では、地図の書かれる順序には以下のようなパターンがあるそうです。今回もそれにあてはまるのでしょうか。

- a) イメージが通い慣れた動線に沿ってまず形成され、次にそれから外へ向かって発展していく例
- b) 全体の輪郭がまずできあがり、それから中心にむかって埋められていく例
- c) 基本的な繰り返し模様からはじまって、それから細部が付け加えられるもの
- d) 隣り合った地域がいくつ描かれ、そのうえで相互の連結状態や地域内部のことが詳しく描かれるもの
- e) なじみが深く密度の高いエレメントである核から出発し、その他のすべてのものが、結局これに結びつけられているもの。

最後に、地図についてのブレストが終わったら、仙台のイメージマップについてまとめましょう。

仙台のパブリックイメージにとって、なくてはならない、より多くの人に共有されている、メジャーなエレメントにはどのようなものがあるでしょうか。

実際の仙台市の物理的環境と比べた場合、過大評価されているものは何でしょうか。逆に過小評価されているものは何でしょうか。こうした実際と認識のズレは何によって生じたのでしょうか。

参考文献：ケヴィン・リンチ『都市のイメージ』丹下健三，富田玲子訳，岩波書店，1968

※ しばらく海外出張のため休講です。次回は12月14日です。